

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4070702081		
法人名	株式会社 グローバルケア		
事業所名	グループホーム グローバルケア		
所在地	〒807-0873 福岡県北九州市八幡西区藤原3丁目10-15 093-691-3021		
自己評価作成日	平成24年11月15日	評価結果確定日	平成24年12月31日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

学習療法(東北大学 川島隆太監修 くもん学習療法) 週5日1回15分~20分 散歩 1月8月を除いて、気分転換を兼ねて近くの公園等に散歩に行きます。 自立支援・配膳の手伝い・食事の準備や片付け・植物の手入れ・掃除の手伝い・亀 餌やり等 遠賀郡在住のピアニスト・水上 裕子氏による音楽セラピー(認知症介護カリキュ ム)実施(H24年は、毎月1回開催)
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「グローバルケア」の周辺には、産業医科大学、九州共立大学や多くの商業施設があり、利便性の良い閑静な住宅街の中の、1ユニットのグループホームである。開設以来ホームが取り組んでいる音楽セラピー、公文式学習療法等は、心身機能の活性化を促し、認知症の進行を遅らせる効果に繋がっている。また、「第二の住まい」を目指し、管理者と職員は、利用者一人ひとりに寄り添い、家庭的な手厚いケアを展開している。利用者の健康管理は、かかりつけ医と、隔週往診の提携医を活用し、利用者一人ひとりに合った受診体制を確立し、24時間医療連携体制が整っている。また、地域の敬老会、盆踊り、バザーに利用者職員が参加し、親しくなった近所の方と、散歩の途中で立ち話が始まり、地域との交流の輪が広がっている。開設10年目のグループホーム「グローバルケア」である。
---

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シダプル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成24年12月17日		

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	夜勤から日勤への申し送り(朝礼)時に、全員で唱和し、実践している。	ホーム独自の理念を掲示し、朝の申し送り時に唱和し、理念の意義を理解した職員が、利用者の目線に立って、一人ひとりに合った、介護サービスを実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩や地域の催し物(盆踊り・敬老会・バザーなど)に、積極的に参加している。	住宅地の中にあるので、日常の散歩や買い物等で近所の顔なじみの方と、挨拶や立ち話をして、地域の情報を得て、地域の盆踊り、敬老会、バザー等に、利用者と職員が積極的に参加し、交流の輪が広がっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践できていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H24年は、2月4月6月9月に開催し、11月も開催予定です。	定期的に会議を開催し、ホームの現状や問題点等を報告し、参加者から意見や質問が出され、活発な会議を目指して、さまざまな工夫に取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居の空き状況等を、地域包括センター担当者に連絡し、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センター職員と連絡を取りながら、入居状況や困難事例等を報告し、ホームの実情や取り組みについて理解を得て、連携を図っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間を除き施錠していない。拘束をしない介助は、実践的に実施しているが、職員の入替わりもあった為、職員全員が「具体的な禁止行為」を十分理解できるよう、周知徹底する。	身体拘束だけでなく、言葉等も気をつけるように、職員間で話し合い、拘束が利用者に与える影響を考慮し、優しい声かけを目指している。また、玄関の鍵は日中は開錠し、自由に利用者が出入り出来る環境である。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルは完備して、職員の行為が虐待に結びつかない様に、日々防止に努めているが具体的な研修は、十分ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員について、研修等十分でない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームでの催し物(コンサート・もりフォーラム等)の際に、参加の呼びかけを行い、意見や要望を集約する機会を設け、運営に反映させている。	家族面会時や電話連絡、また、各行事の参加時に、職員は家族と話し合う機会を設け、希望や苦情等を聴き取り、利用者が一番安心して暮らせるように配慮している。また利用者の意向を聴き取る為、職員は利用者寄り添い会話の中から、利用者の希望を聴き取る努力をしている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の主任会議を行っているが、職員の意見や提案が、集約されているとは言いがたい。	毎月主任会議を開催し、毎日の引き継ぎの中で職員の意見を出してもらい、ホーム運営に反映させる努力をしている。また、職員会議を定期的で開催し、職員の意見や提案を聴き取り、意見の反映に向けて取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H22年9月「キャリアパス要件」等の届出もを行い、福岡県介護職員殊遇改善交付金も活用して条件の整備に努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	本年度の職員採用面接に当たっては、レポートの提出を課すようにし、候補者の「やる気・本気」を、選考方法に変更した。また、既存の職員については、「キャリアパス要件」を提示して、配慮している。	職員の休憩室やロッカーを整備し、職員が働きやすい職場環境を目指している。また、職員の採用は、本人のやる気や本気を優先し、採用後は、職員の特長を活かした取組と、勤務体制を作り、職員が生き生きと働ける職場環境を目指している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念を唱和し、利用者の人権について職員同士で常に、話し合っている	外部研修には参加してないが、毎朝のミーティングや、毎月の職員会議で利用者の尊厳やプライバシーについて、管理者と職員と一緒に話し合い、利用者の尊厳を守るための介護サービスの在り方について、意見を出し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	H22年1月からつき1回のペースで「職員社内研修」を実施している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十分な取り組みは出来ていない。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーが第一段階で関係づくりを行い、月1回以上主任とのケアプラン会議を実施して、すり合わせを行っている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャーが第一段階で関係づくりを行い、月1回以上主任とのケアプラン会議を実施して、すり合わせを行っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用も含めた対応は行っていない。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	申送り(朝礼)時に唱和する、「ホーム信条」にもその項目を、取り入れ暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を築くべく、方法を模索中です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めている。	利用者の知人や、遠い親戚等の面会が時々あり、行きつけの買い物や、馴染みの場所に出向き、関係が途切れない支援をしている。また、利用者への入居後の利用者同士や職員との、新たな馴染みの関係継続の支援が始まっている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支援に努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援要請があれば、最大限協力している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	主任会議、ホーム会議で検討している。	職員は、利用者の思いや意向を聴き取り、家族と相談しながら、実現に向けて取り組んでいる。意向表出困難な利用者には、職員が優しく寄り添い、話しを聴きながら、利用者の表情や、独り言から察知し、利用者の意向表出の把握に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	看護要約・診療情報提供書等で把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主任会議、ホーム会議で検討し、現状の把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しや、検討を通じて現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、利用者や家族の要望を聴き取り、関係者と相談し、3ヶ月毎に作成している。また、利用者の、重度化や急変時には、家族と連絡を取り合い主治医と相談し、その都度介護計画の見直しを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	主任会議、ホーム会議で検討し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	十分な取り組みは、出来ていない。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分支援できていない。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2回の往診を基本に支援している。	利用者と家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援を目指している。協力医療機関による毎月2回の往診を実施し、24時間の医療連携体制で、利用者が安心して暮らせる環境が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1ヶ月に2回程度の看護師勤務を基本に、携帯電話利用で支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、病院、ホーム(事務長・ケアマネジャー)で、対応している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに向けた支援体制を整え、利用者や家族と話し合いをしている。	利用者の重度化が進み、今後の支援について、家族と話し合い、主治医の意見も取り入れて、支援体制の方針を関係者で共有している。また、ホームで出来る支援や出来ないことを明示し、利用者や家族に理解してもらい、利用者の重度化に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は出来ていない。	/	
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練は年2回実施しているが、地震や水害などの訓練は、実施できていない。	年2回自衛消防組織による避難訓練を実施し、消火設備の点検も同時に実施している。また、非常災害に備えた訓練の実施を検討している。	消防署の協力と指導を得て、地域住民の協力と参加で、非常災害訓練を実施し、避難経路、非常口、避難場所等を確認しながら取り組み、非常食、飲料水の補充を期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分注意を払い対応している。	職員は、利用者を人生の先輩で、家族のような間であり、優しい声かけや、さりげない見守りで対応し、利用者の尊厳を守る介護サービスの提供を実践している。また、個人情報の記録は、事務室の人目に触れない場所で管理されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	主任を中心に働きかけている。	/	
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分希望にそっているとは言えない部分もあると思うが、支援している。	/	
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容の希望など本人の意思を尊重し支援している。	/	
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材準備・盛り付け・後片付け等、一緒に行っている。	食事は、毎週1回、利用者の好みを聴きながら、買い物、下拵え、配膳、片付けまで、利用者と職員が一緒にしながら、同じテーブルで職員は弁当を持参し、楽しい会話の中で、利用者の食欲増進に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の状態に合わせた支援をしている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕食後は、夜勤者1名で十分ではないが、個別の状態に合わせた口腔ケアをしている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアマネージャー・主任を中心に支援している。	利用者の全員がトイレでの排泄を基本とし、早めの声かけや誘導による、排泄の支援をしている。また、紙オムツから布パンツへ変わる等、利用者の自信回復に繋がるトイレでの自立に向けた、排泄支援に努めている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の状態に合わせた予防をしている。排便スケールの把握で、今の時点では出来ていると、思う。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には月・水・金曜日の入浴日だが、時間帯などは、出来る限り本人の希望に応じている。また、他の曜日の入浴にも出来る限り対応している。	入浴は1日置きであるが、毎日入ることも可能であり、利用者の気分や健康状態を考慮して支援している。また、入浴を拒否する利用者には、職員が寄り添い、話し合いながら、その気になるまで待ち続け、無理強いしない支援をしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の状態に合わせた支援をしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1ヶ月に2回の往診を基本に服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主任会議、ホーム会議で検討し、支援している。		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	十分とは言えないが、極力支援している。	法人グループの他施設の行事参加や、花見、もりフォーラム、初詣、回転ずし、散歩、買い物等、利用者の希望を取り入れて、外出が、利用者の生きがいに繋がるように支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望・希望に応じて支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望・希望に応じて支援している。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分とは言えないが、極力工夫している。	独身寮を改築し、出来るだけ家庭的に仕上げ、利用者がゆっくり寛ぐリビングには、職員や家族が集まり、笑い声が絶えない、楽しい共用空間である。また、クリスマスの飾りつけや、記念写真を張り、暖かい雰囲気包まれた、リビングルームである。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分とは言えないが、極力工夫している。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	要望・希望に応じて工夫している。	居室には、家族の協力を得て、仏壇や、家具、利用者のお気に入りの物、大切な物を持ち込み、自宅で暮らすような雰囲気のある居室である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分とは言えないが、極力工夫している。		